

道徳 ジャーナル

99号

- 風 審判員になって得たサッカーの環境を整える喜び 山内宏志……………1
- 21世紀 心の時代に 幸せってなんだろう 山元加津子……………4
- 【連載】考え、議論する道徳教育のススメ (第9回) ……………6
- 特別活動と道徳教育
- 道徳授業 私の実践 (小学校) 道徳科の全面実施に向けて 飛田幸正……………8
- 「考え、議論する道徳」の実現は、学校を大きく変える 山田芳昭……………10
- 道徳授業 私の実践 (中学校) 道徳科における漫画教材の活用 佐々木哲哉……………12
- 炎上の仮想体験ゲームを「考え、議論する道徳」につなげる授業の工夫 大西久雄……………14

かぜ

選手から審判へ

私がサッカーの審判をするようになったのは、大学一年のときです。サッカー少年だった私は、大学でもサッカー部に入りました。チームメイトは優秀な選手ばかりで、半年もすると、「自分の実力では、プロになるのは厳しい」と気付きました。そんな私に、先輩が「審判をしてみないか」と声を掛けてくれたのです。「卒業後も、大好きなサッカーに関わっていたい」と思っていた私は、「サッカー審判員の資格を持っていたほうが有利だろう」くらいの軽い気持ちで、資格を取ることにしました。

最初から審判員を目指していたわけではない私ですが、審判員として試合をジャッジするうちに、審判の面白さに引き付けられました。

審判員になって得た サッカーの環境を 整える喜び

大学卒業後は、サッカーの母国であるイングランドに留学し、帰国後にJリーグやプロの試合の審判員として必要な一級の資格を取得。まず、Jリーグの二部リーグJ2で主審を務めました。J2で活躍が認められれば、J1へ、そしてJ1で経験を積み上げれば国際試合をジャッジできる国際審判員へとステップアップできます。ところが、私は四年間もJ2の主審のままでした。J1を担当する主審は約二十名。同年代の審判員では、年に一人か二人がJ1を担当できればいいほうです。私はこの非常に厳しい戦いを勝ち抜かず、苦しんでいました。

審判員になってからの私の夢は「いつかFIFAワールドカップ大会に主審として出場することでした。そのためには国際審判員にならなければならないし、なによりJ1の試合で実績を残さなければなりません。しかし、いつ

©JFA



サッカー国際副審
山内宏志



Jリーグで主審を務める ©JFA

までたつてもJーを担当する主審になれませんか。「自分は何のためにサッカーの審判をやっているのだろう」。そんなことを考え、葛藤することもありました。するとあるとき、先輩の審判員が「これからはますます副審の重要性が高まるだろう。国際的に活躍できる副審が必要になってくる」という話をしてくれました。

サッカーの審判団は、基本的には主審と副審二人の三人で構成されています。このうち、副審は、以前は「線審」「ラインズマン」と呼ばれていました。しかし一九九七年に「副審」「アシスタントレフェリー」と名称が変更されたのに伴い、その役割も大きく変化しました。ボールやオフサイドのラインを見るだけではなく、主審が気付かない、見えにくい部分のファ

ウルなどを主審に伝え、試合を円滑に進める役割も担うようになったのです。先輩の審判員から、今後の副審像についての話を聞いているうちに、私は「国際副審を目指すのも面白いのではないか」と思い始めました。

副審への転身

二〇一二年六月、私は、副審を専門に担当する「担当副審」への転向を申し出ました。今までは主審として、ピッチの中から試合を見ていましたが、副審はタッチラインの外側、ピッチの外から試合を見ます。視点が全く違うので、新たな気持ちで取り組むことができました。「副審はこんなふうに試合を見ていたのか」と思うと同時に、自分が主審だったときの経験を生かして、主審が見えにくいところを確認することもできました。

また、プレーヤーの副審に対する意識が少しずつ変わっていることにも気が付きました。例えば、ボールがピッチ外に出たときや、水を飲みに来たタイミングで、「今のはファウルじゃないですか?」、「今のプレーはどう思いました?」などと聞かれることもあります。副審が、いろいろなプレーを見て判断していると思っているからこそ、聞いてくるのでしょう。そ

れに對して、私は主審も含めた「審判団」として答えなければなりません。そのためには、副審は主審との密なコミュニケーションが必要だと感じました。担当副審に転向して半年後にはJーの試合を担当し、その約一年後の二〇一四年には国際副審となりました。その後は二十歳以下の選手の世界大会である「FIFA U-20ワールドカップ」や、「第三十一回オリンピック競技大会(二〇一六年リオデジャネイロ)」といった大きな国際大会も経験させてもらいました。

国際大会では、会場ごと、試合ごとに全く違う雰囲気になります。例えば中東の国では、宗教上の理由でスタジアムの観客はほとんどが男性。観客数はJリーグの試合とそう変わらないのですが、応援の声は大きくて低く、迫力があります。その国独特の文化や風習、宗教、メンタリティなどが、サッカーや会場の雰囲気にも反映されるので、とても個性的です。

どの国に行っても感じるのは、サッカーというのは本当に愛されているスポーツだということです。サッカーはとても単純で、基本的にはゴールを決めるだけのスポーツです。ルールも十七条までしかありません。だからこそ国際試合では、対応の仕方や伝え方に注意するようにしています。そうした国ごとの文化や伝統へのリス

ペクトが、国際試合の難しさであり、面白さだ
と思っています。

デフサッカーとの出会い

また最近「デフサッカー」という、聴覚障
がい者の方のサッカーの審判もしています。き
っかけは、非常勤講師を務めていた専門学校
に、聴覚障がい者の生徒がいたことです。彼と
話をするうちに、自分の授業が音声の情報に頼
りすぎていたことに気付かされました。その彼
が卒業後、デフサッカーに関わることになり、
私に「今度デフサッカーの試合があるので、審
判をやってくれませんか？」と連絡くれたの
が始まりです。

かれこれ五年ほどデフサッカーの審判員をさ
せてもらい、昨年は聴覚障がい者サッカーの日
本代表と、知的障がい者の日本代表のメモリア
ルマッチで主審を務めさせてもらいました。聴
覚障がい者は耳が聞こえないので、健常者のサ
ッカーのように、主審は笛を吹いてファウルな
どを知らせることができません。そのため笛で
はなく旗を使うのですが、私はふだん副審とし
て旗を使っていますから、あまり違和感がない
のです。

また、聴覚障がい者の方も審判に携われるよ

うに、デフサッカーのリーグ戦期間中には、私
が講師となって審判講習会を行いました。講習
会には、聴覚障がい者はもちろん健常者も、手
話ができる方、できない方、読唇ができる方、
できない方といういろいろな方が参加しました。そ
の途中で例えばコミュニケーションをとれる
のか、アイコンタクトやジェスチャーなどを駆
使しながら、みんな頑張っていました。

例えば、埼玉スタジアムのような大きな試合
会場に満員のお客さんが入ると、サポーターの
声援で監督の指示の声は全く聞こえなくなりま
す。選手間の声も、ほとんど聞こえません。現
在、審判員たちはコミュニケーションシステム
という、レシーバーを使ったシステムでやり取
りをしています。無線のため混線で聞こえに
くくなったり、調子が悪くて音が通じないこと
もあります。そんなときに役に立つのは、やは
りアイコンタクトとジェスチャーなのです。そ
ういう意味でも、私がデフサッカーから学ぶべ
きところは多いと感じています。

サッカーの環境を整える

サッカーでは、どうしても主審のほうが注目
されるので、副審になったばかりの頃は少し寂
しい気持ちもありました。けれどその分、自分

自身を振り返って成長することが問われている
ような気がします。

今思えば、主審時代に自分が思ったような成
果を出せずに悩んでいたときでも、サッカーの
審判員の仕事は面白いと思っていたし、やめよ
うとは考えませんでした。それは審判の役割
が、サッカーの「環境」を整える仕事だからだ
と思います。環境を整え、みんなが楽しんでい
る姿を見ることが、自分のやりがいにもつなが
っていました。それには主審にこだわる必要は
ないし、考えれば考えるほど、副審のほうが自
分の強みを生かしていると思います。

副審に課せられる役割は、決して易しいもの
ではありません。例えば、オフサイドの旗一つ
で点が入るか入らないかは決まりますし、その
ゴールが選手の将来を決めることだってありま
す。どんな試合であっても、大きなミスをすれ
ばたくさんの方に迷惑を掛けることになりま
す。常に副審としての責任感、緊張感をもちな
がら、これからも活動していきたいと思ってい
ます。

その結果、夢の舞台であるFIFAワールド
カップや、二〇二〇年に開催される東京オリン
ピックに関わることができれば、幸せなことだ
と思います。

(やまうち ひろし)

21世紀



心の時代に

幸せってなんでしょう

旅の仲間と出かけたブータンで考えた、本当の幸せ――

旅の仲間とブータンに出かけました。

ブータンはまだまだ豊かではない国で、国の財政の多くが観光と水力発電で賄われています。医療費と教育費は無料ですが、働き手として家の仕事を手伝ったりするため、学校に通えない子どもたちも多いということでした。

学校に行くと、朝一番にみんな運動場に集まって、お祈りが始まりました。何を祈っているのかたずねると、「世界中の人が幸せでありますようにと祈っています」とのことでした。

旅の仲間が、「教育目標が書いてあったよ。びっくりしたよ」と言いました。日本の学校では、「自立」とか「努力」とかそういう文字が

並ぶことが多いけれど、ブータンでは「人の幸せを願える人を育てる」が教育目標なのだそうです。なんだかとてもびっくりしました。

お祈りのあと、教室を見せていただきましたし

た。先生が子どもたちとお話ししてくださいと言ってくれたので、子どもたちに質問をしました。

「夢はなんですか？」

最初の男の子は「お医者さんになりたい」と言いました。「どうして？」とたずねると、「お医者さんになって、病氣や怪我で苦しんでいる人を幸せにしたい」と胸を張りました。次の女の子は「先生になりたい」と言いました。「どうして？」とたずねると、「先生になって、子どもたちを幸せにしたいです」とかわいらしい笑顔を見せてくれました。

二人の子どもたちを素敵だなと思ったけれど、でも、わたしは、その答えがなんだか子どもらしくないのじゃないかとも思ったのです。「かっこいいから」とか「お金持ちになれるから」という理由でもいいと思いました。



作家
元特別支援学校教諭

山元加津子

その次の男の子は「サッカーの選手になりたい」と言いました。そうだよなと思いました。サッカーの選手はかっこいいし、お金持ちにもなれるかもしれないものね。そうじゃなくちゃ、とわたしは思ってしまったのです。でも、その男の子は「サッカーを頑張って、みんなに夢を与えて幸せにしたいんです」と言いました。わたしは、神社に出かけても、自分や家族のことばかり祈ってしまっています。それなのに、ブータンの人たちは、世界中の人の幸せを祈っていると言っているのです。大人も子どもも、まるで体に染み込んでるようにそう言うのです。

いじめなんかしたら

子どもたちを見て、ブータンの学校にはいじめがあるのだろうかと思い、男の子に「いじめ

はありますか?」とたずねました。

男の子は不思議そうな顔をして「いじめってどんなこと?」と言いました。わたしが「一人だけをのけ者にしたり、物を隠したり、ひどいことをみんなで言ったりすること」と説明すると、男の子はまた不思議そうな顔をして「日本人は、なんのためにそんなことをするの?」と聞きました。「そんなことをしたら、自分のことが好きになれない。好きになれなかったら、誰のことも幸せにできない。自分も幸せに生きられない。どうしてそんなことをするの?」と、とてもびっくりしていました。

そういえば、「ブータンには泥棒がない」とガイドのリンチェンさんが言いました。「どうして?」とたずねると、「そんなことをしたら、自分が恥ずかしいでしょう。そしてそんな自分を誇れない」と言うのです。

日本でも昔は、おばあちゃんが「誰も見ていなくても、お天道さんが見ておられる」と教えてくれたなあと思いました。男の子の言葉にもリンチェンさんの言葉にも涙が出ました。そして、いじめや泥棒があっても当たり前のように思っている自分が恥ずかしくなりました。わたしも自分を好きでいたい。自分を誇りに思いたい。自分に恥じないことをしていきたいと思いました。

そういえば、ガイドのリンチェンさんも毎日仏間で祈るのだと話してくれました。そしてブータンの人たちは、一番目に今日亡くなった世界中の方のために祈り、二番目は生きている世界みんなの幸せを祈るそうです。三番目は自分の国のこと、国民のことを祈ると言っていました。

「その次は?」と聞くと、「それでおしまい」とリンチェンさんが言ったので、わたしが「自分のことは祈らないのですか?」とたずねたら、「自分みんなが幸せだったらそれで幸せだから」と言いました。

リンチェンさんが「あなたは何が幸せですか?」と聞きました。

わたしはそのとき歯がちよつと痛かったのです。歯が痛い、歯が痛くないときは幸せだったなと思います。よく眠れたし、おいしいものも食べられたから。そして、何かをなくしたり、何かが起きたりしたときに、そんなことなかった前は幸せだったと思うけれど、そうすると、本当はいつだって幸せなんだなと思いました。わたしたちはいつでも何か大きな力に守られているようだと思います。

そこでわたしが答えたのは、「誰もが本当は幸せ、いつもどんなときも本当は幸せなんだと思っている」ということでした。リンチェンさ

んの聞きたかったことに対して、わたしの答えが見当違いでなかったらいいなあと思います。

お経を書いた旗

旅の間、五色のものや真っ白いものなど、たくさん旗を見ました。旅の最後に登った標高三九八メートルのチェレラ峠にも、白い旗「ダルシン」と五色の旗「ルンタ」がたくさん立ってっていました。これらの旗には、お経が書かれています。風は旗のお経を読むそうです。それは祈りと同じだとブータンでは考えられています。ダルシンもルンタも風にはためいていました。風に乗って世界中に祈りが届くのだと、ブータンの方は信じていて、旗をたくさん立てるのだそうです。チェレラ峠には一万本とも二万本とも言われるダルシンやルンタがあるそうです。風に揺れる旗を見ると、まるで光が風に乗って、世界へ広がっていくような錯覚を覚えました。九州ほどの大きさのブータンから、たくさん祈りが世界中に毎日、毎時間届いているということを、わたしは忘れたいと思いました。

霧に囲まれた山道は天国に続く道のように感じられ、何もかもが美しいと思いました。

(やまもと かつこ)

考議論

連載
第9回

道徳教育ススメ

特別活動と道徳教育

國學院大学教授 杉田洋

はじめに

2018 FIFAワールドカップロシア大会での日本代表の活躍に日本中が沸くなか、日本人サポーターのごみ拾いが世界から絶賛された。ベルギーに惜敗した日本のサポーターたちが、試合後に涙を流しながらごみを拾ったことが報道され、「世界の規範だ」と称賛が巻き起こり、「日本は文化も教育も最高だ!」ともツイートされた。そうした日本の「掃除文化」に注目し、シンガポールでは二〇一六年、すべての小中学校に「掃除(SOI)」の時間を導入している。

エジプトでは、エジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)の下、特別活動(TOKKATSU)の導入が始まり、パイロット校では日直当番や掃除などが始まっている。元高等教育大臣のハニー・ヒラールさんは、「よりよい教育のためには、自分たちで考えて行動する力が育てられる日本のTOKKATSUが必要だ」と話している。このコメントが、特別活動における道徳教育の役割を言い当てているように思う。

特別活動と道徳科の役割

哲学者であり教育者でもある森信三氏が提唱した「時を守り、場を清め、礼を正す」は、日本のどの学校でも指導されている。これらは、一見、教師や保護者など大人による指示命令で徹底する、いわば躾のように見える。しかし、道徳科ではその価値について考える授業が行われ、学級活動でも指導が行われている。学校行事で全校清掃や地域清掃なども行われ、遠足や宿泊活動では、「来たときよりも美しく」の合言葉の下、掃除が行われている。

例えば、学級活動では、「場を清め」について、「つかむ↓さぐる↓見つける↓決める」の学習プロセスによる指導が行われている。改善すべき課題をつかみ、皆でその原因や必要性をさぐり、さらには解決方法を見つけ、自分の努力すべきことを自分で決める話し合い活動である。各自が意思決定したことに基づき、意識して行動したり、努力したりしたことなどについて振り返り、自分自身や他者の体験や行為などをもとに、「場を清め」とはどういう

「意志決定」の指導

ことか、なぜ大切なのかなど、自己の生き方についての考えを深めている。

一方、道徳科は、特別活動での指導も含め、日常的な行為、家庭や地域での行いなども踏まえ、「場を清め」とは何か、なぜ大切なのか、働くことの意義は? など、道徳的価値について考え、議論する授業が行われている。教科書などの読み物教材を活用し、登場人物の心情と自己の有り様とを重ねて考えるなど自己の生き方について考えを深める指導法により、「道徳教育の要」の役割を果たしている。

一般に、頑張りがきく子ときかない子、大人になって伸びる子と伸びない子がいるが、そこには、自分への自信が深く関わっていると言われている。確かに、「自分には、良いところが一つもない」と思ったらどんな人も頑張れないし、「どうせ頑張ったって……」と思ってしまうたら自分から努力もしないだろう。逆に、自分には良いところがある(自己肯定感)、自分もやればできる(自己効力感)という気持ち

が高い子は、必要と感じたとき頑張りがきくのだ。

誰もが「自尊感情を育てたい」と願うが、簡単なことではない。たとえば、ただ大人や周りの子供が繰り返し褒めても、本人の自尊感情につながらなければ効果はない。「自信」がその子供の主観だから指導が難しいのである。とはいえ、その原則はある。

第一は、できるだけ子供に自分で決めさせること。そうすればこそ頑張りをするし、「自分もやればできる」と思えるからだ。たとえ上手くいかずとも「努力することは大切だ」と体得もするだろう。第二に、「なりたい自分」を明確にもたせること。「何をどこまでしたい」など、具体的な願いにする。そのためには、「こうしなさい」ではなく、「どうしたいのか？」と問う必要がある。第三に、その願いに向かって努力や頑張りを見逃さずに見取り、価値付けすること。小さな成功体験を積み重ねたいからだ。

低学年の子供が自分で育ててきた野菜を少々遠い調理場まで運ぶ場面を考えてみたい。大きく成長した重い野菜に耐え切れず、途中で泣き出した子供

に、教師はどう関わればよいのか。「最後まで頑張らなさい」と叱る。「重いよね、一緒に運んであげるから頑張ろう」と共感する。正解はないのだが、特別活動の指導者としては、「どうして野菜を育ててきたの？ どうして野菜をここまで運んできたの？」と問いたい。そして、「絶対に自分たちでつくって、食べたいと思ったから」という子供の意志決定とその強い思いに立ち返らせ、「そうであれば最後まで自分で運ばないとね」と自ら頑張る力を引き出すのだ。これが、特別活動がこだわってきた意志決定の効果である。

「合意形成」の話合い活動

国際連合が国際機構とし創設され、七十年目を迎えたのは二〇一五年のことだ。この機会にと世界各地で名所や文化遺産が国連のシンボルカラーである青色にライトアップされたが、美しいはずの「国連ブルー」がなにか悲しげに見えた。東京スカイツリーが青に染まったまさにその瞬間にも、世界では紛争が起こり、悲惨な人々の姿がテレビに映し出されていたからである。

このような状況について、「国連が機能していない」と絶望感をもつ人々も少なくないと思う。大国の利害がぶつかりあっているなか世界平和のための合意が見いだせないからだ。しかし、そんな国連にも絶望せず、諦めず、期待し続けたい。「話合い（合意）」を止めてしまえば「殴り合い（力による強制）」になりかねないからだ。

少し大げさな言い方になるが、特別活動の自治的な話合い活動の果たしている役割の一つに、世界平和を実現するための原点となる力や態度などの育成が期待されていると思う。教育課程企画特別部会が「論点整理」で述べた「意見の違いや多様性を生かしつつ集団としての意見をまとめていく話合い活動」（学級会など）がそれであり、そこで期待された「社会参画の意識や合意形成のための思考力・判断力・表現力等」である。これは、道徳の内容「相互理解、寛容」の指導とも重なり、日本人を日本人たらしめている「寛容性や謙虚さ」にもつながっている。日本の特別活動は、東北の大震災の際にも見られた自助・共助の気質も育ててきたと自負したい。

おわりに

私は、前述したエジプト国へのTOKATSUの導入に専門家の立場で関わってきた。今、学級会にも取り組んでいる。これまでの印象で言えば、エジプトでは、自己主張が強く人の意見を聞くのが苦手な子が多く、一度決定したことに、いつまでも納得せず不満に思う傾向があり、それは大人も同様のようだ。一人一人が他者の意見に耳を傾け、公平に物事を決められるようになれば、どの国でもよりよい国家に近づけるだろう。特別活動の導入は、エジプトの国づくりをも変える可能性を秘めている。

エル・シーシ大統領も、日本人や日本の文化を高く評価している。歴史も宗教も異なる立場ながら、日本のよさを感じてくれてるようだ。このような評価を受け止めて、日本人として誇りと自信をもって自らのよい面を伸ばしていきたいものである。

（すぎた ひろし）

道徳授業 私の実践

埼玉県蓮田市立黒浜北小学校
主幹教諭

飛田 幸正

道徳科の全面実施に向けて

学校全体で取り組めるよう研究主任として工夫・改善を図ってきたこと

本校は、平成二十九年度から道徳科の自主研究を始め、本年度より蓮田市教育委員会から二か年にわたる道徳科の研究を委嘱された。

今次の学習指導要領改訂は、戦後最大の教育改革と評されるように、様々な対応を学校に求めている。そして、道徳科においては、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。こうしたなか、研究を進めるにあたり、教職員の多忙感を取り除きつつ、負担感無く、かつ確実に移行が進められることを第一に考えた。

ゴールを見据える

「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「プログラミング学習」等々、解決すべき課題は山積している。

道徳科だけでも、学校の重点内容項目の決定、全体計画・年間指導計画・別業の作成、評価方法と観点についての共通理解等、平成二十九年度中に完成させておかねばならないものが膨大にあった。

そこで、教職員に目指す道徳科の授業をイメージさせるために、道徳研究者の示範授業の参観を進言した。



示範授業は、六月に越谷市立栄進中学校 島方勝弘校長（教材「くもの糸」）、越谷市立大沢小学校 藤澤由起夫校長（教材「絵葉書と切手」）、一月に幸手市 山西実教育長（教材「こと

さんとしらさぎ）、筑波大学 齋藤眞弓講師（教材「ぐみの木と小鳥」）に実践していただいた。

教育活動を創造する 気概をもたせるために

現在、学校における働き方改革として業務改善が検討されている。しかし、教育活動の成果を高めるために授業や行事の改善を行い、工夫して行うとするとどうしても時間がかかる。わたしは、教育活動を創造することにより意欲をもち負担感無く取り組めてこそ、働き方改革と考えている。

そこで、主幹教諭として教務の業務を進めるうえで、「従前どおり」を廃し、工夫を加えるとともに負担が一人の教員のみにかかることを防ぐようにした。

一方、校長も働き方改革推進のため、昨年五月に在勤時間を意識させるタイムカードを導入したり、七月に職員室の座席配置を教職員の顔が見渡せるように変えたりした。また、会議を職員室ではなく会議室等で実施することで、時間的な効率化も図られていっ



本校在学期中に児童に身につけさせたいことをまとめると、重点を置く教育活動が明確になるとともに家庭や地域からの協力が得やすくなることを考え、昨年度、地域に開かれた教育課程の実現に向けて『黒北小三つのめばえ』を策定し、四月に全家庭に配布した。

一方、本校が推進する道徳科研究として、保護者や地域との連携及び協働

『黒北小道徳の日』の創設

これらの改善によるいちばんの変化は、教職員同士の会話が増えたことである。また、低・中・高と学年ブロックごとに座席を配置したことから、顔を見ながら話し合いができ、ブロックでの連携がより強まったと感じている。

研究成果を測る指標設定

すでに多くの道徳科研究が行われているが、その多くは指導法の工夫や自作教材の開発等に重点が置かれ、子どもたちがどのように変容していったかを数値的に研究成果としてまとめた学校は少ない。

そこで、自主研究を含めた三か年にわたる研究では、数値的に成果を測る方法にこだわって、研修推進委員で検討した。一つのアイデアとして、道徳科が創設された背景のデータを基に、質問紙調査を行うことになり、次のような質問紙を作成した。

【児童向け】

一 道徳の授業は好きですか？
二 道徳の授業はためになると思えますか？

三 生活の中で学習したことを思い出すことはありますか？

四 二十二の内容項目について「できる」「できない」

【保護者向け】

一 しつけや子育ての悩みについて相談できる相手がいますか？

二 交通ルールや公共の場でのマナーを守っていますか？

三 道徳は大切だと思いますか？

四 二十二の内容項目について子どもに「身につけている」「今後身につけてほしい」

【教職員】

一 道徳の授業を十分実施できていますか？

二 道徳の授業を実施する上での課題は何ですか？

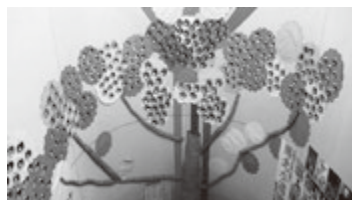
三 「考え、議論する道徳」を推進するための工夫点

四 二十二の内容項目について子どもに「身につけている」「今後身につけてほしい」

今後は、学期あるいは半年に一回程度継続的に調査を実施し、経年変化から数値的な成果を読み取れるのではないかと考えている。

道徳の学びの場の創設

本校にはプレイルームと呼ばれる一教室分の広さの吹き抜けの空間がある。ここに、子どもたちの心が癒やされる空間、道徳科の授業の振り返りができ道徳の学びをさらに深められる「心のオアシス」となる空間を創設し、活用していきたい。



現在、担任は初めて道徳科の評価を行っている。すべての学校で取り組まれていることであるが、本校では、問題無く進められている。これも研究成果の一つと考えている。今後は、自作教材の開発等、教職員一人一人の授業力アップにつながる研究に、継続的に取り組んでいきたい。

(とびた ゆきまさ)

道徳授業私の実践

三重県桑名市立星見ヶ丘小学校前校長
山田芳昭

「考え、議論する道徳」の実現は、学校を大きく変える

——道徳科の特質を生かした授業づくりと学校経営——

はじめに

昨年『教育ジャーナル』七月号・十一月号で、本校の道徳教育を基盤とした学校経営と道徳科を要とした道徳教育について詳しく掲載していただいた。

本校は、平成二十七年より三年間、道徳教育総合支援事業（道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業）三重県実践推進校並びに、桑名市教育委員会教育推進校の指定を受け、小学校学習指導要領（平成二十七年告示）に基づき、「道徳の時間」を「特別の

教科 道徳」（以下、道徳科とする）に移行し、道徳科の特質を生かした「主体的・対話的で深い学び」となる授業の実現を目指して研究を推進してきた。今回は、これまでの研究を通して、「考え、議論する道徳」の実現が学校を大きく変革させ、道徳科の特質を生かした授業づくりが豊かな人間性を育む学校経営に生かされてきたことを紹介する。

道徳科の学びの基礎を各教科等の指導にも

本校では、落ち着いた雰囲気の下で

として授業で活用できるようにしてきた。それぞれの指導方法については、教師の明確な指導観を基に、最も適切な指導方法を学年部で選択して授業に生かしていくことにした。また、授業の中心的な活動となる話し合い活動は、朝の会や朝の学習活動の時間、各教科等の授業の中で指導・援助を行い、学びの基礎づくりを行うことで道徳科の授業に生かされ、自分との関わりをねらいとする道徳的価値について理解を深められるようになってきた。次に話し合いの工夫について一例を紹介する。

【中・高学年の場合】

「ばく（私）は、……という気持ちだったけれど、Aさんの……という気持ちも聞いて、それもあるなあと思いました。（その気持ちをもっと強くなりました。）（……の気持ちの方が強くなりました。）」

自分の考えを話し、次に、仲間の考えにふれてそれを理解することで、最初の自分の考えがさらに深まるように発表形式を工夫した。また、発表した児童の名札を黒板に貼り、その下に児童の発言をキーワードで簡潔に書くようにした。この板書の工夫により、だ



基本的な学習指導過程とタイム・マネジメントによる授業展開

そこで、本校では、基本的な学習指導過程を図2のように設定。「導入」

図2 基本的な学習指導過程

おわりに

(やまだ よしあき)

道徳授業

私の実践

岩手大学教育学部
非常勤講師
佐々木哲哉

道徳科における漫画教材の活用

「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」の授業から

漫画教材の意義

漫画教材は、読み物教材に比べ、場面をイメージできるので、ストーリーや内容を把握しやすい。また、描かれた登場人物の表情から、心情を推し量りやすいという利点がある。さらに、アニメや漫画の文化が浸透している生徒には、教材に親近感や興味をもちやすいという傾向がある。あるいは、道徳授業で深刻な問題や深い価値内容を取り扱う場合、文章より漫画の方が、間接的な立場に立つて見ることができ

るため、考えやすいといった側面もある。漫画教材は、その利点を生かすことで、効果的に活用できる可能性をもっている。

手塚治虫氏の生命倫理観

医師免許をもっていた手塚氏には、生命倫理に関わる問題提起が潜んでいる作品が数多い。「火の鳥」、「ブッダ」、「ジャングル大帝」等では、生命のかけがえのなさ、連続性や有限性、不思議さ、崇高さなどを暗示している場面や内容が多く見られる。命や生き

方の問題を掘り下げていることが、手塚氏の漫画の大きな魅力でもある。

「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」では、「生命の尊厳」に関わる「命」の問題が取り上げられている。安楽死専門の医者キリコと、ときに法外な治療費で命を救うブラック・ジャック、対照的な生命倫理観をもつ二人の対峙で描かれるのは、安楽死と命の尊厳の問題である。

ストーリーはきれいな事に終わらず、ブラック・ジャックの手術が成功して患者の命は救われたが、直後の交通事故で患者が家族もろとも死んでしま

う。そこには、命には人間の力の及ばない有限性があること、人生の予測不可能性が暗示されている。高笑いを残して去るキリコに対して、ブラック・ジャックが叫ぶ「それでも私は人をおすすめだっ 自分が生きるために。」という言葉に、戦争体験を出発点とした手塚氏の医者としての使命や生命への倫理観、命に対する人間の生き方の問題が提起されている。

生命倫理観の変遷と存在論的意味付けの必要性

紀元前にギリシャで医者であったヒポクラテスの「害と知る治療法を決して選択しない」、「頼まれても、死に導くような薬を与えない」という「誓い」は、医療倫理の根幹として長い間位置付けられてきたという。しかし近年では、医療の考え方が大きく変化している。患者の人權を尊重し、患者主体の医療が提唱されるようになり、決定権を医者から患者に移す考え方や、安楽死が是認されるような解釈も現れるなど、命に対する多様な考え方が存在するようになってきた。

授業実践から

命に関わる問題は、生物学的な生命理解を超えた、他者との命のつながりや関わり、存在としての不思議さ等に意味付けられた理解が必要である。新学習指導要領の内容に「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し…」とあるのは、道徳科の授業の中で、多面的・多角的に深く学び合う必要性を強調していると捉え、授業を構想することにした。

○主観名 生命の尊厳

○内容項目 生命の尊さ

○教材名 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」(中学生の道徳 かけがえのないきみだから2年『学研』)

○ねらい 生命の尊厳について深く考え、かけがえのない自他の生命を尊重し、よりよく生きようとする心情を育てる。

○主な発問と生徒の反応

・前半(母の手術が成功するまで)を提示し、読む。

①キリコに安楽死を依頼する母親をどう思うか。

※発問の意図…死を願う気持ちについて、母親の視点と子供たちの視点から考えさせる。

・「子供たちに迷惑をかけたくない」という気持ちは分かる。

・キリコなら分らないように死なせてくれる。

・自分の命より子供のためと思う気持ちは愛情。

・母親が安楽死をしても子供たちは喜ばない。

・子供たちにとって、母の命はかけがえのないもの。

②子供たちがブラック・ジャックに手術を依頼したのはなぜだろう。

※発問の意図…子供の願いと、命に関わる幸せの視点を考えさせる。

・ブラック・ジャックなら必ず助けてくれる。

・母親に生きていてほしい。

・母親と生きることが子供たちにとって幸せ。

○母親と子供たち、どちらも愛があり、相手の幸せを願っていることを確認する。

ブラック・ジャック

二人の黒い医者

安楽死を願う母

イラスト

母親も助けた子どもたち

イラスト

・「いよいよ生きてみたい、死返したい、なんでもくれた人だから、母親も幸せにしたい。」

・後半(母親と子供たちが交通事故で死んだことを知る場面から)を提示し、読む。

③ブラック・ジャックが「それでも私は人をなおすんだっ 自分が生きるために。」と叫んだのは、なぜだろう。

※発問の意図…ブラック・ジャックの言葉から、「生きる」ことを自分との関わりで考えさせる。

・人を生かすことが、自分の仕事だという使命感がある。

・自分も生かされているという、自覚がある。
・人を生かすことが、自分の幸せだから。
・命を助けることに、生きる意味があると考えているから。

おわりに

教材を前半と後半に分けて提示して発問したことで、生徒は様々な視点から自分の価値認識を主人公に託して発表することができた。「命の尊厳」という難しい内容ではあるが、生徒は生命の尊厳について多面的・多角的に考え、学び合うことができた。道徳科での漫画の活用で、多面的・多角的に考えさせられる効果を確認することができた。(ささき てつや)

道徳授業 私の実践

埼玉県越谷市立平方中学校
校長

大西久雄

炎上の仮想体験ゲームを

「考え、議論する道徳」につなげる授業の工夫

はじめに

平成二十八年十一月十二日、当時の松野文部科学大臣メッセージでは、「いじめに正面から向き合う『考え、議論する道徳』への転換に向けて」と題した今後の道徳授業のあり方についての提言がされた。道徳が特別な教科となり学校教育現場に「考え、議論する道徳」の展開が求められたのだ。「いじめはいけないこと」「時間を守り、規則正しい生活をすることは大事なこと」「嘘をつくのはいけないこと」

などを指導することは大事であり、学校教育のみならず家庭教育でも繰り返して指導していくべきである。しかし、これらを道徳の授業で取り上げ、議論の場にするのは易しいことではない。小学校高学年、さらには中学生以上であれば、これらを単純に議論させても上滑りになるだけなのだ。「わかっているのになかなかできない」状況、「それをどうしたら良いか」などのさらなるツッコミのひと工夫があって初めて議論が生まれてくる。人間の弱さ、ずるさ、わかっているのにできないもどかしさなどを実感し、理解

した上での本音の議論である。

カードゲームを活用した授業

博報堂が制作したネット上の炎上をシミュレーションできるカードゲームがある。『大炎笑』がそれだ。子どもたちは日々SNSの投稿等で「炎上」まではいかないにしてもそれに近い体験や事象を見聞きをしている。実際に堂々と皆が「炎上」を授業で仮想体験してみる機会がこのゲームにはあるのだ。そこから「炎上」をさせる側の気持ち、させられる側の気持ちを実体験

でき、皆を共通の土俵に上がらせることができるのだ。

道徳授業で「考え、議論させる」には、皆が頭ではわかっていることや規則・ルールに留まっていなくてはならない。表面をなぞる形だけの内容ではなく、さらにその先に突っ込む要素が欲しい、それだけの素材、教材が欲しいと常々思っていたところ、制作担当者が『大炎笑』を本校に持ち込んできた。炎上のどちら側も体験し、その時の気持ちや状況から「どうしたら炎上をさせない、されない」か、またそれは本当に可能なのか、の議論にもつながられる本ゲームは子どもたちにとって身近で新鮮な素材である。早速、『大炎笑』を活用した授業を全学年で実施してみた。

生徒の現実をリアルにとらえて

この『大炎笑』ゲームは、四名程度で実施し、あらかじめ設定しておいたテーマについて各自炎上しそうなことを書くところから始まる。各自の書いた内容で一番炎上しそうな内容からの時計回り順で番号を振り、四枚の手持



「大炎笑」に組む生徒たち

ちカードからその番号の前後の数字カードを置いていき炎上させる仕組み。カードも番号があり2の「はあ？」から8の「うざい」など「クソコメント」と言われるコメントが書かれ、これを声に出しながらカードを出し、相手を炎上させる。実際に体験した生徒は、こちらが想像した以上にノリノリでゲームを行いリアルな感じをつかんだようで、生徒の授業への食いつきが違うと感じた。それも当然で、先行する授業者三名（各学年一名）が事前に開発者の指導の下、本ゲームの実体験を行った。その時に、実際の授業では生徒たちにどんなテーマで炎上体験をさせるかの議論も行った。そこで決定

したテーマは「〇〇先生の隠された趣味」「〇〇先生って…」と授業者自らを組上に載せるものとなった。生徒たちは「本当に書きちゃっていいんですか」と半信半疑だったが、「この時間だけは思い切り書いてよらしい」と担任のお墨付きが出たのだ。

実際にSNS等での現実とは、「書いてちゃっていいんですか」の確認やためらいもなく、思ったことを吟味せず書きってしまうことが炎上の原因なのである。より現実に近いリアルな状況を作り上げるとは、シミュレーションであってもものの議論に本気度が増す。先生をディスることはネットの影響の世界では普通であっても、学校の授業ではあり得

ないこと。このタブーを超えたところに炎上の本心や本音が見えてきて、「考え、議論する」の本当の姿が見えてくるのではと考えたの

である。議論の場面では、「炎上させたくないのはなぜ」から「炎上してしまった時の気持ち」を話し合い、その後「炎上させない心得」を考える。

「自分のコメントに責任をもつ」「過剰に反応しない」「書いたものを読み返す」などが出たが、ここまでは想定していたいい子的な模範解答である。ここで、各担任はさらに「それって本当にできるの」とよくある現実の状況に即したツツコミを入れる。ここからが本当の議論となり、いよいよ本音が出てくる場面だ。この素材が「考え、議論する道徳」に適していると感じたのはこの部分である。誰もが頭だけでわかり切った意見を言いがち、空疎になりがちな議論を生徒の現実にあるリアルなライブ空間に引き戻せるのだ。

授業を受けた生徒の感想には、「顔が見えないことの気楽さ、安易さ」「勝手な正義」に流され易いことへの気付きから「普段スマホを使用している、授業で炎上に触れることができた」という話となり「自分たちの実際の生活から考え、炎上をさせる側、させられる側に気持ちが考えられた」などの声が見られた。まさしく

ねらいどおりの効果を得ることができた。授業をした教師からも「道徳の授業は、本音と建前の意見の相違で苦しむことがあるが、今回の教材からは本音の意見や議論を引き出しやすい」という感想が出た。ゲームのやり方や説明をもっと簡素化できるとさらに教材として有効だろうという意見もあった。また、PTA広報の取材として授業を参観した保護者は、「ネットの炎上が授業の素材になることにビックリしたが、こうしたことを学べてありがたい。子どもたちは楽しく、かつ自分のこととしての学びがあって良かった」と述べている。

おわりに

今回は、授業をよりリアルな設定にできるか、生徒のより身近な素材を持つていき、各自の本音、心情にいかに向けるかのトライアルであった。道徳に限らず、今後我々が考えていけないといけないことを本ゲーム活用の授業で再確認できた。

（おおにし ひさお）

自由度が高く評価にも役立つノートと、
命の大切さを考える補助教材が1冊に！

いのちを考える読み物つき

道徳ノート

(1～6年)



学年に応じて最適な大きさのマス目を使用したノート。

学校・学級の実態に応じて創意工夫ができるよう、縦書きでも横書きでも使用可能。

「学期のまとめ」ページもあり、児童自身の振り返り、評価にも役立つ。

各学年に、道徳科で重点的に学んでほしいテーマである、いのち・いじめ・ESD（持続可能な発展を巡る教育）の補助教材付き。

「いのち」を
考える教材
「いのちをかんじて」
(1年) ▼



*教材ページはカラー。

◀「ESD」を
取り上げた教材
「自然のゆりかご」
(4年)

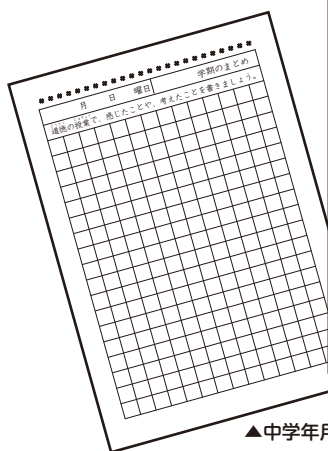


▲「いじめ」を考える教材
「ひろきのシュート」
(6年)

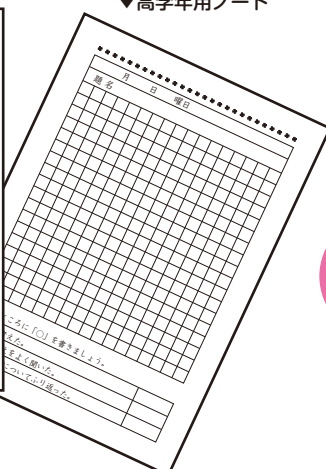
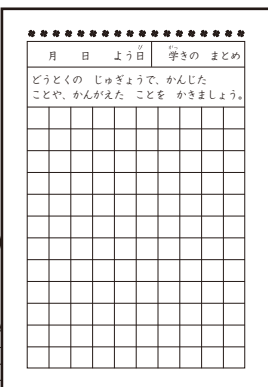


▼1年生用「学期のまとめ」

▼高学年用ノート



▲中学年用「学期のまとめ」



「評価の研究」にて
評価事例をご紹介します

●道徳ジャーナル99号● 平成30年10月発行

発行所 株式会社 学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 木村友一

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部（〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8）

内容については……TEL(03)6431-1565(編集) それ以外のことは……TEL(03)6431-1151(販売)

URL <http://gakkokyoiku.gakken.co.jp>

●『道徳ジャーナル』は左記ホームページでもご覧いただけます。電子版（iOS、Android用）は「学研ブックビヨンド」から。

9300006530